

平成30年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価について (文化芸術分野抜粋)

【課題と今後の対応・方向】

1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

①子どもが参加できる事業の時間配分や体験内容の改善

子どもが参加できる事業については、年齢などに応じて適切な時間配分や体験内容について改善が求められる。

②スマートフォンに対応したウェブ広報の充実

周知手段として、従前から実施しているチラシなどの配布も当然必要ではあるが、従来から関心がある層にしか届かない。昨今の時代状況に応じた情報環境の構築として、スマートフォンに対応したウェブの充実などの対応が必要である。

2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

①稼働率が高い施設の一般利用への対応

シビックホールをはじめとするシビックセンターの各施設の稼働率はおしなべて高く、大いに評価できる。一方で、一般利用の予約が難しくなっており、何らかの対応が必要であろう。

②若年層を鑑賞事業に参加を促すきっかけや若手芸術家の発表の場づくり

若年層の鑑賞・創作など文化芸術への参加が、全体的に少ないことから、鑑賞事業に参加を促すようなきっかけづくりや、興味・関心が持てる内容を検討していくとともに、若手芸術家の発表の場を積極的に作っていくことが望まれる。

3 「文(ふみ)の京(みやこ)」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

①文化イメージ、伝統観にしばられない新たな観点からの事業企画

文京区は、文化や伝統が豊かである一方、ややもすればステレオタイプ化された文化イメージ、伝統観にしばられてしまう危険性もある。それを回避し、引き続きより多くの人々に文化芸術活動に参画してもらうためには、新たな観点からの事業企画が必要であろう。

例えば、「文京区デジタルジャーニー」のような観光を目的とするサービス、サブカルチャー系の振興策などを文化芸術分野で積極的に活用していくことは、一つの方向であろう。

②文京ミュージックマップなどを活用した事業や割引制度などを取り入れた新たな仕組みづくり

文京ミュージックマップなどを活用した事業や、割引制度なども取り入れながら、新たな仕組みを作っていくことも必要である。